

平成29年度 小坂町民意識調査

回答結果

◆調査の目的

町の取り組みに対する評価を町民に問い、その結果を今後の町政運営に反映させる。

◆調査の対象

満18歳～74歳の町民で、無作為抽出の500人を対象

平成29年9月30日時点で住民基本台帳に搭載されている方のうち、無作為によって抽出した満年齢18歳から74歳までの町民で、前回のまちづくりアンケート(平成27年2月実施)に該当しなかった500人。

◆調査の期間及び回答数

有効回答者数217人 43.4%の回答率

調査表の配布：平成29年11月1日（水）に対象者へ郵送

調査表の回収：平成29年11月14日（火）を投函期限として受取人払い郵送及び総務課への直接手渡しで回収

500人への配布の内、回答があったのは220人。この内無効として処理(ほぼ無回答)が3人。故に有効回答として処理したのは217人(43.4%)である。

小坂町総務課企画財政班

平成29年12月

◆調査結果（設問中、無回答のものは回答数に含まず）

回答者自身について

問1 性別

① 男 106人 49.07% ② 女 110人 50.93%

問2 年代

①30歳未満 9人 4.19% ②30代 16人 7.447% ③40代 25人 11.63%
④50代 44人 20.47% ⑤60代 81人 37.67% ⑥70歳以上 40人 18.60%

問3 居住地区

①川上 28人 12.90% ②中央 140人 64.52% ③七滝 31人 14.29%
④上向 16人 7.37% ⑤十和田 2人 0.92%

問4 小坂町に居住してどのくらいになるか（通算）

① 5年未満 17人 7.87% ② 10年未満 6人 2.78%
③ 20年未満 22人 10.19% ④ 30年未満 25人 11.57%
⑤ 30年以上 146人 67.59%

問5 出身地

① 生まれてからずっと 59人 27.31%
② 町出身だが町外にも住んでいた 76人 35.19%
③ 県内の他市町村出身 53人 24.54%
④ 県外出身 28人 12.96%

問6 世帯構成

① 単身 14人 6.51% ② 夫婦のみ 57人 26.51%
③ 親・子（二世帯） 88人 40.93% ④親・子・孫（三世帯） 32人 14.88%
⑤ その他 24人 11.16%

問7 職業

①自営業（農業・漁業含む） 25人 11.52% ②会社員 51人 23.50%
③公務員・団体職員 19人 8.76% ④パート・アルバイト 37人 17.05%
⑤専業主婦（主夫） 32人 14.75% ⑥学生 1人 0.46%
⑦無職 45人 20.74% ⑧その他 7人 3.23%

問8 住まいの種類

① 持家 182人 83.87% ② 借家（アパート含む） 12人 5.53%
③ 町営住宅 13人 5.99% ④ その他 10人 4.61%

問9 自分が子育てしている子どもの状況（複数いる場合は下の子）

①未就学児 7人 3.30% ②小学生 4人 1.89%
③中学生 5人 2.36% ④高校生 7人 3.30%
⑤子育てしていない 147人 69.34% ⑥その他 42人 19.81%

町の印象について

問10－1 町の印象について

- ① 自然豊かな町
 思う 84.69% 思わない 2.87% どちらでもない 12.44%
- ② 活気のある町
 思う 9.30% 思わない 53.49% どちらでもない 37.21%
- ③ 安心・安全な町
 思う 61.86% 思わない 12.09% どちらでもない 26.05%
- ④ 伝統文化が息づく町
 思う 53.01% 思わない 14.42% どちらでもない 32.56%
- ⑤ 人の支えあいがある町
 思う 41.40% 思わない 14.88% どちらでもない 43.72%
- ⑥ 愛着が持てる町
 思う 47.20% 思わない 14.02% どちらでもない 38.79%
- ⑦ 暮らしやすい町
 思う 33.33% 思わない 30.05% どちらでもない 36.62%

全ての設問において、先回のアンケート(平成21年10月実施)に比して「思う」と回答した割合が落ちている。

特に、活気があると思う比率が下がっていることが気付きである。

また、伝統文化が息づく町としての印象も7割から5割台へ大きく落ちている。しかし、年代別に見ると若い人ほど伝統文化に対する印象度が高くなっていた。

町への愛着度合い、暮らしやすさも大きく落ちている。また、「若い人ほど暮らしづらいと感じている」ようだ。

問10－2 前問で暮らしやすい町と思わない(71人)と回答した理由(複数回答)

- 1. 買い物が不便 63.24%
- 2. 医療体制が不安 60.29%
- 3. 雪処理が大変 55.88%
- 4. 娯楽の場が少ない 47.06%
- 5. 近隣に適当な働く場が少ない 38.24%

前問で「暮らしやすい町とは思わない」と回答した方へその理由を聞いたところ、買い物の不便さ、医療体制の不安、雪対策、娯楽の場が少ない、適当な雇用の場がないということを挙げている。「働く場が少ない」以外の回答で、前回(平成21年10月)、前回(平成27年2月)のアンケートに比して割合が上昇している。

年代別で見ると若い方は娯楽の場が少ないと回答し、年齢が増すほど徐々に医療体制や雪対策に暮らしづらさを感じている。また、40～59歳の働き盛りの年代で、適当な雇用の場が少ないと回答する方が多くなっている。

また、子育て世帯では娯楽の場が少ない、適当な雇用の場が少ない、医療体制が不安と回答する方が多い。近所付き合いが面倒だと回答する比率も高い。

生活基盤の満足度

問11 生活基盤の満足度について

- | | | | |
|------------------|-----------|-----------|----------------|
| ① 町内の道路網、道路整備 | 満足 35.48% | 不満 16.59% | どちらでもない 47.93% |
| ② 町外との広域道路網、道路整備 | 満足 37.79% | 不満 15.21% | どちらでもない 47.00% |
| ③ バスの本数や路線数 | 満足 7.58% | 不満 50.71% | どちらでもない 41.71% |
| ④ インターネットなどの通信網 | 満足 23.12% | 不満 14.07% | どちらでもない 62.81% |
| ⑤ 雨水、排水対策 | 満足 21.50% | 不満 21.50% | どちらでもない 57.01% |
| ⑥ 公園、子どもの遊び場の整備 | 満足 21.33% | 不満 23.22% | どちらでもない 55.45% |
| ⑦ 消防団や防災訓練など | 満足 32.70% | 不満 8.53% | どちらでもない 58.77% |
| ⑧ 防犯体制 | 満足 25.12% | 不満 9.95% | どちらでもない 64.93% |
| ⑨ 交通安全対策 | 満足 30.66% | 不満 7.08% | どちらでもない 62.26% |
| ⑩ 危険箇所点検、崩落防止など | 満足 19.81% | 不満 23.58% | どちらでもない 56.60% |

この項目の設問はおしなべて満足度が高い結果となっている。

しかし、その中で地域公共交通への満足度は非常に低く、満足と答えた方は1割もない。ただし、前回(平成21年10月)に比べて「不満である」との回答は1割程度下がっている。

通信網の満足度は「どちらでもない」と回答した方が6割を超えた。回答者の内、60歳以上の方が6割を越えているため、インターネットなどを利用しない方が多く、あまり重要度が高くなかったのではないかと推察される。

その他、雨水排水対策、公園整備、防災対策、交通安全対策、危険箇所対策などはいずれも「どちらでもない」と回答した方が6割近くを占めた。

なお、回答に年代で大きな差はなかった。

生活環境の満足度

問12 生活環境の満足度について

- | | | | |
|----------------------|-----------|-----------|----------------|
| ① 下水道、生活雑排水施設の整備 | 満足 32.39% | 不満 18.78% | どちらでもない 48.83% |
| ② 美しいまちづくり(地域清掃活動など) | 満足 38.43% | 不満 11.11% | どちらでもない 50.46% |
| ③ 自然環境保全活動 | 満足 31.60% | 不満 10.38% | どちらでもない 58.02% |
| ④ 公害対策(悪臭、騒音、振動) | 満足 26.07% | 不満 20.85% | どちらでもない 53.08% |
| ⑤ ゴミ分別、リサイクル活動 | 満足 46.73% | 不満 8.41% | どちらでもない 44.86% |
| ⑥ ゴミの不法投棄防止対策 | 満足 23.70% | 不満 18.48% | どちらでもない 57.82% |
| ⑦ 省エネ対策、地球温暖化対策 | 満足 16.83% | 不満 13.94% | どちらでもない 69.23% |

この項目の設問もおしなべて満足度が高い結果となっている。

この中で下水道整備、美しいまちづくり、自然環境保全、リサイクル活動は満足と回答した方が3割を超え、特にリサイクル活動は5割近くが満足と回答した。

なお、年代別で見るとこの項目は若い方の評価が高かった。

産業振興・就労支援満足度

問13 産業振興・就労支援満足度について

- ① 農業振興(農業者支援、農地保全など)
満足 13.78% 不満 18.88% どちらでもない 67.35%
- ② 畜産振興
満足 15.26% 不満 15.26% どちらでもない 69.47%
- ③ 林業振興(間伐の実施、森林活用など)
満足 9.90% 不満 28.13% どちらでもない 61.98%
- ④ 商業振興(消費拡大支援、特産品開発など)
満足 10.15% 不満 42.13% どちらでもない 47.72%
- ⑤ 工業振興(企業誘致、企業支援など)
満足 10.61% 不満 46.97% どちらでもない 42.42%
- ⑥ 観光振興(観光拠点開発、広域連携など)
満足 25.25% 不満 29.80% どちらでもない 44.95%
- ⑦ コミュニティビジネス(地域に存在する遊休資源(ひと・もの)を掘り起こし、地域課題を地域のアイディアとビジネスの手法を用いて解決する仕組み)推進
満足 6.67% 不満 40.51% どちらでもない 52.82%
- ⑧ 就労者支援(若者・高齢者の就労支援など)
満足 7.14% 不満 50.51% どちらでもない 42.35%

産業振興の内、直接関わっている方が少ない農業、畜産、林業は「どちらでもない」と回答した方が6割を超えている。

商業振興、工業振興、コミュニティビジネス推進、就労者支援は不満だと回答した方が4割を超えている。

商業振興は不満が満足を大きく上回った。これは問10-2で町が暮らしやすい理由として、「買い物が不便である」と回答している方が一番多いことにも関連する。

工業振興と就労者支援も不満が満足を大きく上回った。これは問10-2で町が暮らしやすい理由として、「近隣に適当な働く場が少ない」と回答している方が多いことにも関連していると考えられる。

観光振興では前回調査(平成21年10月)より満足度が若干増したが、不満度も増した。

なお、年代別で見ると若い方の商業振興、観光振興の不満度が高かった。

保健・医療・福祉の取組満足度

問14 保健・医療・福祉の取組満足度について

- | | | | |
|---------------------------|-----------|-----------|----------------|
| ① 健康増進のための保健活動(健診、保健指導など) | 満足 52.56% | 不満 5.12% | どちらでもない 42.33% |
| ② 地域の医療機関・診療体制 | 満足 18.06% | 不満 43.37% | どちらでもない 36.57% |
| ③ 夜間・休日などの救急医療体制 | 満足 11.85% | 不満 48.82% | どちらでもない 39.34% |
| ④ 子育て支援(保育所、育児相談など) | 満足 22.17% | 不満 15.76% | どちらでもない 62.07% |
| ⑤ 高齢者福祉(介護予防、介護サービスなど) | 満足 35.44% | 不満 13.11% | どちらでもない 51.46% |
| ⑥ 障害者福祉(福祉サービス、就労支援など) | 満足 27.72% | 不満 9.90% | どちらでもない 62.38% |
| ⑦ 一人親家庭福祉(相談、経済支援など) | 満足 13.13% | 不満 15.66% | どちらでもない 71.21% |
| ⑧ 生きがいづくり(学習講座など) | 満足 16.59% | 不満 16.10% | どちらでもない 67.32% |
| ⑨ 地域福祉活動(地域の支え合いなど) | 満足 21.46% | 不満 15.12% | どちらでもない 63.41% |

この項目中、医療に係るもの以外は満足度が高い。

特に健康増進保健活動、高齢者福祉については前回(平成21年10月)、前々回(平成27年2月)のアンケートより満足度が大きく向上し、満足であると回答した方が3割を超えている。

地域医療体制、救急医療体制の不満足度が5割近くまでなっており、日常生活を送るための不安材料となっている。

なお、年代別で見ると若い世代は子育て支援、高齢者福祉、障がい者福祉で満足度が高く回答している。高齢世代では、地域医療、救急医療に対し他の年代よりも不満足度が少ない。

教育・文化・スポーツの取組満足度

問15 教育・文化・スポーツの取組満足度について

- | | | | |
|-------------|-----------|-----------|----------------|
| ① 郷土文化の伝承 | 満足 31.22% | 不満 10.24% | どちらでもない 58.54% |
| ② 生涯学習の活動 | 満足 23.00% | 不満 7.50% | どちらでもない 69.50% |
| ③ 小中一貫教育 | 満足 43.84% | 不満 8.37% | どちらでもない 47.78% |
| ④ 人権教育の推進 | 満足 18.37% | 不満 12.24% | どちらでもない 69.39% |
| ⑤ ふるさと教育の推進 | 満足 24.37% | 不満 13.20% | どちらでもない 62.44% |

各項目とも「どちらでもない」と回答したの比率が高い。

小中一貫教育については前回(平成21年10月)、前回(平成27年2月)のアンケートより大幅に満足度が増し不満度が減っている。

なお、年代別で見ると若い世代ではこの項目の満足度は高い。

ふるさと教育の推進については、今回初めて掲載した設問である。

少子化対策・結婚支援の取組満足度

問16 少子化対策・結婚支援の取組満足度について

- | | | | |
|---------------------------|-----------|-----------|----------------|
| ① 出会い・結婚支援(イベント開催など) | 満足 2.05% | 不満 49.74% | どちらでもない 48.21% |
| ② 出産支援(不妊治療費助成など) | 満足 11.92% | 不満 29.02% | どちらでもない 59.07% |
| ③ 子育て支援(保育料軽減など) | 満足 20.73% | 不満 19.69% | どちらでもない 59.59% |
| ④ 教育支援(通学費・給食費補助、奨学金制度など) | 満足 25.51% | 不満 17.86% | どちらでもない 56.63% |

この項目は前回のアンケート(平成27年2月)に引き続き掲載した設問である。

前回に比して大きな変化はないが、結婚支援の取組についての不満度が大きく、約半数が不満であると回答している。

なお、若い世代では結婚、出産についての不満度が高い。

町民参画・行政運営の取組についておたずねします

問17-1 町民参画・行政運営の取組満足度について

- ① 地域の自治会活動支援
満足 22.12% 不満 15.21% どちらでもない 62.67%
- ② 行政への参画促進(民意の反映、懇談会開催など)
満足 13.17% 不満 20.98% どちらでもない 65.85%
- ③ 町の情報公開、広報活動
満足 28.10% 不満 17.14% どちらでもない 54.76%
- ④ 行財政の効率化、合理化
満足 9.00% 不満 21.50% どちらでもない 69.50%

6割程度の方が「どちらでもない」と回答している。

問17-2 町の情報は何で得るか(複数回答)

- ① 広報こさか 96.23%
- ② 町のホームページ 19.81%
- ③ メール配信サービス 25.94%
- ④ SNS(町の公式facebook・Twitterなど) 4.72%
- ⑤ 新聞、テレビ、ラジオなどのマスコミ 58.96%
- ⑥ その他 7.55%

町民は何から情報を得ているのかを知るために設問を設けた。

広報こさかにより情報を得ている方が多い。次いで多いのは地元新聞やテレビから情報を得ることだが、1/4の回答者は町が送信するメール配信サービスと回答した。SNSから情報を得ている方が思ったほど多くなかった。各年代とも共通である。